



27 シウンのお嫁入り①

2014. 2 執筆

2014 年に入って間もなくのことです。シウンが浜松市動物園に移動することが決まると知らされました。いつか来ると思っていたので、ついに来てしまったと動揺しながらも平静な態度で（自分ではそう思っていますが…）承諾しました。

それでもやっぱり寂しさはもちろんでしたが、搬出と言うたいへんな作業が決まったことに緊張が走りました。

私がキリンの担当になってから、両親と複数のコドモという関係を見たくてシウンは下の子が生まれてもしばらくは残してほしいとお願いしました。それよりも私は、あまりにも幼いキリンを搬出するのは反対で、搬出するのならば性成熟する頃（メスは3~4歳くらい）が理想でしたので3歳直前でのシウンの搬出は覚悟の上でした。

移動は小型の動物から大型の動物までそれぞれの動物に合った方法で行われます。網などで捕獲して輸送箱に入れることのできる大きさではない動物は、麻酔を掛けて輸送箱に入れたり、動物が自ら輸送箱に入る訓練をする方法を取ったりすることが多いです。

キリンは背の高い動物です。そのため、体の小さい頃に移動させるのが安全だと言われています。しかし体が小さい生まれて間もない頃は、お母さんと一緒に過ごす大切な時期です。個体差はありますが、その時期に母親と離れることは、精神的な苦痛を感じる人が多いように思います。それを乗り越えられればいいのですが、乗り越えられないケースも見られます。

キヨミズは1歳半で当園に来たばかりの頃、母親がいない、仲間がいない、知らない場所、という環境で精神的な苦痛が大きかったようです。当時の担当者は異常行動が見られたキヨミズに対し、多くの時間を費やして彼の苦痛を少しでも取り除けるように努力しました。

シウンはしっかり者ですが、母親と離れると落ち着きをなくしてしまうので

はとちょっと心配でした。

さて、搬出日が決まったらその日に向けて準備を始めなければいけません。まず輸送箱に慣らすために、搬出日の1ヶ月前に輸送箱の設置が行われました。

私がキリンの担当になって2頭のコードモを搬出しました。私が経験した2回も、それ以前にあったキリンの搬出も、旧キリン舎の時は部屋からグラウンドに出る扉に輸送箱をピッタリとくっつけて設置し、部屋の中から箱に入る訓練をしました。私は箱におびき寄せるのはエサよりも母親が有効だと考え、グラウンドに両親を出し、母親に近付きたいがために箱に入るという作戦をとりました。箱に入ることに慣れて来ると箱の中にエサを付ければ食べに来るようになります。

その方法で、幸い2回ともうまく行きましたが、もしキリンが警戒して自ら箱に入ってくれなかったり、入ったとしても扉を閉める時に中にいたキリンがあわてて飛び出したりしてしまったりしたら搬出はできません。

今回の搬出はキリン舎が新しくなって初めてのことでした。スタッフみんな考えて、今までとは違ったやり方を選び、輸送箱はグラウンドの隅に設置することにしました。

グラウンドではキリンが4頭、グレビーシマウマが2頭同じ空間にいます。その環境でシウンが箱に入るようにするのです。

2014年2月3日、不安を抱えつつも（大きな箱なので一度設置したら場所は変えられないのです……）グラウンドに箱が設置され、シウンのお嫁入りへの準備がスタートしました。

シウンは日頃からとても落ち着いていて扱いやすいキリンでした。そして、ターゲットトレーニングも行っているので搬出日までターゲットで箱に誘導するトレーニングを日常としました。

大きな箱をグラウンドに設置した後、キリン4頭とシマウマ2頭をグラウンドに出しました。箱に気付いた彼らは最初は警戒したものの、特に2頭のコードモキリンは好奇心旺盛なので興味津々にすぐに近付いて来ました。

さあ明日から1ヶ月間、3月3日の搬出日に向けてシウンの箱入れトレーニングが始まります！

目標は箱に入るだけでなく、今までやったことのない「箱に入った状態で扉を閉め、落ち着いた状態にいる」というのが今回のトレーニングの最終目標です！

そして、他にも準備しなければいけないことがあります。
さてどうなりますか、この続きは②で……。



クレーンで吊って箱を設置します

箱を設置するところを見つめるシウン



興味津々、でもちょっと怖々と近寄る
4頭。

ミライがお嫁入りした時に入ってきたのも同じ箱。